

25/5/15 名古屋市議会経済水道委員会（前半）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：それではただいまから経済水道委員会を開会をいたします。この場合本日の案件に入ります前に、当局より発言を求めておられますのでお許しをいたします。

観光文化交流局長：委員長のお許しをいただきましたので発言させていただきます。

当局の元担当課長が9月8日に収賄の疑いにより逮捕されました。このような行為は、市民の皆様の市政に対する信頼を著しく損なうとともに、議会の皆様方にも多大なご心配、ご迷惑をおかけしており深くお詫び上げます。

現在捜査中ではございますが、事実関係を確認した上で適切に対処してまいります。

今後、公務員倫理の徹底を図り市民の皆様の市政に対する信頼回復に全力でくんでまいり所存でございます。

この度は誠に申し訳、申し訳ございませんでした。

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：では次に、観光文化交流局関係の所管事務調査を行います。

本日の案件は、名古屋城天守閣整備事業の進め方に係る総括についてであります。それではまずは当局の説明を求めます。

観光文化交流局長：本日当委員会でご調査いただけます案件は、名古屋城天守閣整備事業の進め方に係る総括についてでございます。

令和5年6月3日に行った名古屋城バリアフリーに関する市民討論会において発生した差別事案を契機とし、観光文化交流局として建築整備事業の進め方に係る総括を行ったものでございます。

この差別事案を受けまして、有識者等で構成する名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る検証委員会による検証が行われ令和6年9月18日に最終報告が示されました。

当局といたしましては、最終報告に掲げられている内容を重く受け止め深く反省し、再発防止や信頼回復に全力を挙げて取り組んでいかなければならないと認識しております。

こうした認識のもと最終報告を踏まえこれまでの本事業全体の総括を行い、二度と同様の問題や更なる問題を生じさせないための再発防止策や今後の事業の進め方につきまして、ご説明させていただきたいと存じます。

詳細につきましては総務課長からご説明申し上げますので、よろしくお願いいたします。

総務課長：それでは名古屋城天守閣整備事業の進め方に係る総括について、お手元の資料に従いご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、お手元には説明資料の他、添付資料といたしまして、名古屋城天守閣整備事業の進め方に係る総括について提出させていただいておりますのでぜひご覧賜りたいと存じます。

それでは表紙をお開きいただき、1ページをお願いいたします。

1、総括の目的と構成でございます。

(1) 目的といたしまして、名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る検証委員会の最終報告を当局として受け止めるとともに、これまでの天守閣整備事業全体を振り返り、事業を進める上での基本的な方針を整理し、再発防止策を含む今後の事業の進め方をお示しするものでございます。

(2) 構成といたしまして、この度の総括は検証委員会の最終報告を受け、添付資料の第2章において、当局の受け止めを記載するとともに、第3章で天守閣整備事業の経緯をお示しした上で、事業の展開に大きな影響を及ぼした事象について原因分析を行い、第4章において、原因の整理とまとめを整理とまとめを実施した後、第5章では今後の事業推進に向けて事業を進める上での基本的な方針と再発防止策を含む今後の事業の進め方を示す構成といたしました。

2ページをお願いいたします。

2、最終報告に対する当局の受け止めでございます。

ここから5ページにかけまして、(1)から(5)といたしまして反省と決意。見込みの甘さや様々な意識の不足について、差別事象に対して適切な対応ができていなかった背景、原因等について、再発防止について、および今後に向けてをそれぞれ掲げさせていただきました。

検証委員会におきましては、当局が引き起こした差別事案に係る検証といたしまして、当局が作成した資料や議会に報告した資料および関係職員等に対するヒアリングなど、1年以上にわたりまして、様々な状況を確認し、調査、議論、検証を行っていただきました。討論会での差別事案に直接的に関わる事項に関する検証を始めとした最終報告における指摘事項を当局として、全て真摯に受けとめ起こしてしまったことや、至らなかった点について、改めて深く反省するとともに、指摘事項について十分に理解を深め、今後の事業に繋げていかなければならないと決意するところでございます。

6ページをお願いいたします。

3、天守閣整備事業の振り返りでございます。

(1) 概要といたしまして、ア振り返りの方法を掲げますとともに、天守閣整備事業の展開に大きな影響を及ぼした事象といたしまして、六つの事象を掲げさせていただきご覧賜りたいと存じます。7ページに参りまして、ここから18ページにかけて、六つの事象に物の事象、それぞれにつきまして概要を事象が生じた原因分析といたしまして、原因分析の対象、評価検討、推定した原因を掲げさせていただきました。

なお、それぞれの事象の経緯や過去の担当者への聞き取りにより把握した内容につきましては添付資料を併せてご覧賜りたいと存じます。

19 ページをお願いいたします。

(8) 所管副市長が障害者の方とやり取りした文書についてといたしまして 20 ページにかけまして、ア概要イ評価を掲げさせていただきました。ご覧賜りたいと存じます。

21 ページに参りまして、4、原因の整理とまとめてございます。

(1) 原因の区分といたしまして、2 最終報告に対する当局の受け止めにおける差別事象に対して適切な対応ができなかった背景、原因等および、3 地区整備事業の振り返りにおける六つの事象から、共通の原因を導いた上で、ア事業の進め方に直接関わるものと、イ事業全体に影響を与えたものに区分いたしました。まずア事業の進め方に直接関わるものとして、木造復元の解釈の他、様々な認識の不一致が市内部で生じていた市内部の調整不足。

本事業のバリアフリー方針を検討するにあたり、バリアフリーの実現が障害者にとって人権問題であるという認識が十分ではなく、障害者団体との対話をする姿勢が欠けていた人権感覚の希薄。

史跡整備を進めるにあたり、考慮すべきことへの対応が不足していた遺跡整備の経験不足、および事業の基礎情報として、公式ウェブサイトにおいて、相当な情報量があるものの、わかりやすい情報提供についてはかける点があったものの情報提供不足を掲げさせていただきました。

次に、イ事業全体に影響を与えたものとして、竣工期限を度々変更するなど混乱をきたすとともに、必要な調査検討が不足することとなったスケジュール優先および前市長の意向や職責による職員の苦悩や葛藤を掲げさせていただきました。

22 ページをお願いいたします。

(2) まとめてございます。

ア事業の進め方に直接関わるものにつきましては、本事業において数々の事象を引き起こしたことはあってはならないことであり、事業の進め方に直接関わるものを原因の根幹と捉えるとともに、事業を進める上での基本的方針を初め、具体的な再発防止策を含む今後の進め方を定め二度と同様の問題や更なる問題を生じさせないよう、確実に実施していくことを掲げさせていただきました。イ事業全体に影響を与えたものにつきましては、本事業においては、特別史跡での整備という特殊性があるにもかかわらず、おろそかにされていたことがあり、ア事業の進め方に直接関わるものとして掲げた原因に対し、適切な対応ができていれば防げたものであると捉えております。

今後、本事業を進めるに当たっては、このような事業全体に影響を与えるものが生じないよう再発防止策を確実に実施することにより、誰も経験していない大規模なプロジェクトを着実に推移をしまいたいと考えております。

23 ページに参りまして、5 今後の事業推進に向けてでございます。

(1) 概要および、(2) イメージをそれぞれ掲げさせていただきました。

本事業の進め方につきましては、4 原因の整理とまとめて整理いたしました。

原因の根幹を踏まえ、今後二度と同様の問題や更なる問題を起こさないよう、また、本事業を着実に進めていけるよう、事業を進める上での基本的な方針を整理した上で、具体的に講ずべき再発防止策を含む今後の事業の進め方を示すとともに、事業の再開に当たりましては、障害者団体等への再発防止策を含む今後の事業の進め方を説明するなど丁寧に進めていくものでございます。

24 ページをお願いいたします。

(3) 事業を進める上での基本的な方針でございます。

市内部の共通認識と円滑なコミュニケーションといたしまして、事業における考え方などの方針を初め市内部で広く共有するために、本事業に係る行動指針を持ち共通認識および円滑なコミュニケーションを図ること、人権意識の向上と障害者等当事者との建設的対話といたしまして、人権感覚を磨き人権意識を高めていくこと、今後取りまとめるバリアフリーの方針を初め本事業全体において、障害者と当事者の参画の場における建設的対話を行うこと。特別史跡内における整備の特別地域内における整備の丁寧な進め方といたしまして、地籍整備の基本的な手順を遵守し、丁寧に調査検討を行い有識者等関係者の理解を得ながら進めていくこと。市民等への丁寧な説明と理解促進、機運醸成といたしまして、市民等への丁寧かつ十分な情報提供に努め、わかりやすく伝えていくための情報発信の方法を検討し実施することで、本事業に対する理解を促進し、機運が高められるように取り組むこと。

現天守閣の記録を適切に保存し広く発信することで、現天守閣を市民等の記憶にとどめ、現天守閣の記録、記憶を後世に繋げていくことをそれぞれ掲げさせていただきました。

25 ページに参りまして(4) 再発防止策を含む今後の事業の進め方でございます。ア市内部の共通認識と円滑なコミュニケーションにつきましては、(ア) 内容および(イ) 推進ポリシーといたしまして市内部の認識を一致させた上で、円滑なコミュニケーションを図るため天守閣整備事業の推進ポリシーを定め、市長、副市長、当局が共有しともに事業を推進すること。

職員だけでなく、市民等に対して提示し、共有することを掲げさせていただきました。26 ページをお願いいたします。

人権意識の向上と障害当事者との建設的な対話でございます。

かっこは、内容といたしまして、ここから 27 ページにかけまして、人権意識の向上を始め四つの区分についてそれぞれの内容を掲げさせていただきました。合わせまして 28 ページをお願いいたします。

(1) 検討体制のイメージといたしまして、先に掲げました、障害者等当事者との建設的対話によるバリアフリーの対応方針の検討における建設的対話の場として、市の整備事業における当事者参画の仕組みとして、健康福祉局にて予定しております。

バリアフリー整備相談支援事業の活用を念頭とした体制のイメージを図示いたしました。ご覧賜りたいと存じます。次に特別史跡内における整備の丁寧な進め方でございます。

各種の研修等を通じて、名古屋城に携わる者の史跡保護に対する意識の徹底や、名古屋城調査研究センター学芸員の調査研究に関する能力向上を図っていくことを始め3点を掲げさせていただきました。

29 ページに参りまして、市民等への丁寧な説明と理解促進、機運醸成でございます。

わかりやすい情報発信を始め、三つの区分についてそれぞれの内容を掲げさせていただきました。

ご覧賜りたいと存じます。30 ページをお願いいたします。

(5) 今後の事業の流れでございます。

ここから 31 ページにかけて、ア整備基本計画取りまとめまでの流れおよびイ天守閣整備事業の今後想定、天守閣整備事業の今後想定する流れを掲げさせていただきご覧賜りたいと存じます。以上、資料の説明を終わらせていただきます。

よろしくご調査賜りますようお願いいたします。

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：では説明が終わりましたので、ご質疑等があればお許しをいたします。

田中里佳（民主・天白区）：説明ありがとうございます。

多分、詳細にいろいろ議論がされると思うんですが、その前にまず根本的なというか根底的なことを確認させていただきたいなというふうに思ったんです。

私の認識としては差別事案があって検証委員会ができて、最終報告が出て、あとパワハラ
の事案の調査結果も出て、観光文化交流局がそれを総括をして、流れという流れだという
ふうに思ってるんですけども、もし間違ってたら言ってください、と思うんですが、今見
るとなかなかのボリュームですよね。今の説明のダイジェストになったのでもなかなかだ
けど、この原本みたいなのはなかなかのボリューム、いいですよ。

最終、多分日程的に今日最終委員会になるかと思うんですが、あの最終1回まで議論を
尽くすっていうのは、あの議会としてただ正しい姿なので、別に最終委員会にこれを出して
これが良いとか悪いとかではないんですが、でもなぜ今日のこの最終委員会のタイミング
だったのかということを確認させてください。

名古屋城総合事務所長：はい失礼いたします。

なぜこのタイミングなのかということでございます。まずすいません。始め大変分厚い資
料をこの最終委員会にはすることになりました申し訳ございません。

このタイミングでというのはですね、昨年9月に市民討論会における差別事案に対する検
証委員会の最終報告書が提出されたことを受けまして、観光文化交流局としての総括に本
格的に着手いたしました。

その総括につきましては昨年度末の取りまとめを目処として、この間天守閣整備事業全体
の振り返りを行いまして、最初再発防止策を含む今後の進め方を検討してきたものでござ
います。

この度総括として取りまとめることができましたので、市民討論会から早 2 年が過ぎようとする中速やかに経済水道委員会の皆様にご報告をさせていただく必要があるものと考えたものでございます。

我々としては少しでも早く、障害者団体の皆様への謝罪や、失われた市政への信頼回復を図っていくことが必要と考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

田中里佳（民主・天白区）：もちろん本当に多分、議会側もね 1 日も早く信頼を取り戻すように努力してほしいということは、きっと皆さんから言われたと思うし、それに向けて努力した総括した結果がたまたま今日だったということってというのは理解はするんです。さっき最初私がこういった流れでいくと、この差別事案の検証というか総括ができて、もう 1 個のパワハラの調査結果っていうのも一つのキーワードだと思うんですが、これ他局になるとは思うんですが、総括ということで、委員長お許しいただければ、そのパワハラの調査結果っていうのはどうなってるかわかりますか。

総務課長谷総務課長：総務局におけるパワーハラスメントに関する調査の状況についてのご質問をいただきました。

昨年 9 月 18 日にですね公表されました市民討論会における差別事案に係る検証委員会での最終報告におきまして、市長や所管副長からの発言を、パワーハラスメントと受け止めていた職員がいたということが確認されました。これを受け公平性中立性を担保し、客観的な調査を行う必要があったことから、同日、総務局におきまして、第三者調査委員会が設置されております。

その後総務局におきまして、令和 6 年 11 月 13 日付にて、愛知県の弁護士会から推薦を受けた 3 名の弁護士に、第三者調査委員会の委員を委嘱されております。現在の状況といたしましては、当局では総務局から現在調査中であるということのみ確認ができていているという状況でございます。

田中里佳（民主・天白区）：動きは早かったよね。だけどその 11 月 13 日に委嘱して半年ですよ。

半年経っているんだけど、調査の状況っていうのは今ぐらいしかわからないの。

総務課長谷総務課長：調査の状況でございますけれども、当局といたしましては調査の状況を把握しておりませんことから今回総務局に確認いたしました。が、現在調査中であり、調査状況を明らかにすることにより、今後の他に影響が出る恐れがあり、途中の調査状況につきましてはお答えできないというふうに聞いており、どのような調査状況にあるかにつきましては承知しておりません、申し訳ございません。

田中里佳（民主・天白区）：いろんなところで第三者委員会のはできていたり、途中はまだ言えないっていうのはそれは理解しますが、ただやっぱり流れて皆さんとしては総括をきちんとしたい。次に進めたい1日でも早く皆さんの理解を得たいという気持ちがあるんであれば、その内容はわかんなくても大体目途っていうか、もう半年経ってるじゃないですか。

いつぐらいの目途っていうかそういうことも全然わからないですかね。

総務課長：総務局からですね、調査に関するにしましては慎重に行う必要があり、期日を要すると、報告書の提出時期につきましては第三者調査委員会において検討されるものでありお答えすることはできないというふうに聞いております。

田中里佳（民主・天白区）：そのパワハラの方のはまだちょっと置いてみたい形になってると思うんだけど、それを出てくるのを待つと、やはり皆さんがここまでこう努力して総括をして纏め上げたものが棚上げにまたになってしまう恐れもある
ので、多分さっきの答えからいくと、やっぱりいち早く関係団体の方にお話をしたいとかそういう思いもあると思うので、総務局のパワハラとは置いて、それをいつできるかわかんないから、先にまず所管事務調査をやって、当局として一歩進みたいという思いから、今日に至ったという理解でいいですか。

総務課長：総務局からですねこの報告書の提出時期については目処が立っていないという状況でございますことから、我々としたしましては委員ご指摘の通り、このタイミングで総括の方を行わせていただきたいというふうに考えております。

田中里佳（民主・天白区）：ありがとうございました。ベースがわかりましたので、またこれから細かい議論に入っていくと思いますので、私からとりあえず以上です。

沢田ひとみ（自民・港区）：関連なんですけれども、今のやり取りを聞いていて、謝罪とか信頼回復を少しでも早くっていう当局のお考えということだったんですけれども、ただパワハラ事案の調査が終わらないと総括も終わらないのではないのかなと思うんですがどうなんでしょうか。

所長：失礼いたします。パワハラ事案につきましては元々は確かに私ども名古屋城が開催いたしました市民討論会の検証の中で出てきた話でございます。したがって当然我々も重要な案件だと認識しております。その調査につきましては、動向注視しているところでございます。

ただ先ほど来出ておりますけれども、現時点では調査結果が出ておらず、また今後についても目処が立っていないというような状況でございます。したがって、当局としては先ほど田中委員にもまとめていただいたところもございまして、まずは今回の総括を

報告させていただきまして、信頼回復の一步を踏み出させていただきたいと考えたものでございます。

なお今回ご提出させていただきました総括の中でも、パワハラそのものではないんですけども、問題点の一つといたしまして市内部における認識の不一致やコミュニケーションの不足というものも掲げております。

再発防止策といたしましても市長、副市長当局における円滑なコミュニケーションというのも掲げておりますので、そういった取り組みは進めてまいりたいと思っております。以上でございます。

沢田ひとみ（自民・港区）：でもパワハラ調査結果が出るまで、待てばよかったのではないかという考えも一つあると思うんですけども一度ちょっと確認させてください。

所長：パワハラ事案の調査結果が出るまで待てばということでございます。調査結果出てないっていうのはご指摘の通りでございます。繰り返しになりますが、市民討論会から早2年が過ぎようとする中、私どもとしては速やかにご報告をさせていただく必要があると考えたものでございます。少しでも早く障害者団体への謝罪、失われた市政への信頼回復を図っていくことが大切であると思っておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

沢田ひとみ（自民・港区）：あともう一つ確認をさせていただきたいんですけども、今回のこの総括とパワハラの検証を切り離してやったとして今後、検証結果が出たらまた総括をということになるんでしょうか。

所長：今後改めて、第三者調査委員会から調査報告書がいつの時点かでは出てくると考えられます。その際には、その内容に応じて適切に対応させていただくということかと思っております。

現時点ではその内容というのが伺い知ることができないわけでございます。その内容が例えば、この今回お出しいたしました総括全体に影響を及ぼす内容でありましたら、やはりこの内容自体も一定の見直しが必要にではないかと思っております。そうでない結果の場合でしたら、今後実際に私どもが取り組みを進めていく中で、その考え方というのを反映させていただきたいと思っております。以上でございます。

沢田ひとみ（自民・港区）：はいわかりました。まずは局としての総括、次にパワハラ事案も加えた市としての総括ということだと思います。そういうふうに理解したんですけども今回、局として総括を出して、後でパワハラ事案の調査結果が出て、結局見直すことになるっていうふうだと最初の総括は一体何だったのかということでもたまた信頼を失うことになるかという点だけちょっと指摘をさせていただきます。以上です。

木下優（公明・中川区）：昨年の9月ですね令和5年6月のこの市民討論会における差別事案に対するですね最終報告が提出をされ、私もしっかり読ませていただきました。

その最終報告においては当日の対応が不適切であったことに対する指摘にとどまらず、また準備段階の指摘や、また背景、遠因に対する指摘を頂戴しており、事業全体の至らない点について指摘をいただいたと私は感じております。

差別事案自体については最終報告で、詳細に検証いただいているので私は差別事案のこの背景になったと感じている市長と当局とのその認識の不一致について質問をしたいと思っております。

そこで市民討論会に先立ってですね令和4年4月、令和4年の12月5日の所管事務調査において、当局が説明した内容とですね、同じ良い時間帯で行われた市長のその定例記者会県における前市長の発言が異なるというですね、行政としてはですね、あってはならない問題が発生をしておりました。

可能な限りですね、史実に忠実な木造復元の方針の中ですね、バリアフリー対応の公募において最優秀者として選定された技術はですね、可能な限り上層階まで設置に向けた取り組みであり期待をしていたわけでありますけれども非常に残念であり、質問をさせていただきたいと思っております。

この件については総括の第三章に置いて6番目の事象として分析をされておりますけれども、まず当局に対してこの事象という背景の中でどのような問題として生じたものかご説明いただきたいと思います。

天守閣整備担当課長：お願いします。説明資料17ページご覧いただけるとありがたいです。ア事象の概要および経緯、概要をご覧いただきたいと存じます。当時ですね令和4年度末を目途にバリアフリー等の課題を含めて、天守木造復元の整備基本計画を取りまとめるよう取り組みを行っておりました。

当局は、令和4年12月5日の経済水道委員会所管事務調査にて、名古屋城木造天守の昇降技術に関する公募の結果等について説明していく中でメーカーから上層階まで目指したいという提案であり、できる限り上層階目指していきたいと我々も答弁いたしました。しかしその一方で同時刻に実施された市長定例記者会見にて、前市長が一、二階までなら合理的配慮と十分言えるのではないかと、当局の考えと違う発言をされてしまいました。

その翌日の経済水道委員会付議議案審査において、委員から前市長と当局が十分に調整できていないことについて厳しい指摘をいただき観光文化交流局長から混乱を招いたことについて謝罪をいたしました。それが経緯でございます。

木下優（公明・中川区）：言っていることわかりますが、平成30年のですね5月に公表された負荷設備の方針に基づいて行った、この公募の結果であり、またその間、選定された技術が上層階まで目指せる提案であったにも関わらずですね、前市長が1階2階までなら合理的配慮と十分言えるのではないかとこのように発言したことは非常に残念なことでありました。

このような市長と当局の不一致については、検証委員会の最終報告でして指摘されていることに加えてですね、この総括における事象の分析においても同様な結論になっていると認識しております。行政が事業を進める上では市内部においてですねこの共通認識を構築して進めることが最も必要であると認識しておりこの点に良いがですね、おろそかになっているんじゃないかと感じているわけであります。今後は広沢市長がですね、この件についてどう考えているのか、非常に重要となってくると考えております。昇降設備の設置に関して広沢市長が現在どのような考え方をしているのか確認をしたいと思いますので、答えていただきたいと思います。

天守閣整備担当課長坂倉担当課長：失礼いたします。広沢市長の昇降設備の設置に関する考え方をご質疑いただきました。

広沢市長は昨年11月に就任され、初めての定例会となる令和6年11月定例会の本会議において、議員からエレベーターはつけないというこだわりがあるのかという質問に対してですね、社会的要請としてのバリアフリーは重要であり、文化財としての価値を追求し未来の国宝となりうる文化財としての価値や、江戸情緒を損なわない範囲におきまして、小型昇降機をできる限り上層階まで設置することについてチャレンジし史実性とバリアフリーを両立させたいと考えているという答弁をさせていただきました。現在もその考えは変わっていないと認識しております。以上です。

木下優（公明・中川区）：この前市長とですね当局は全くと言っていいほどですね本当に認識がすり合っていなかったことがもう明るみになりました。

広沢市長とですね、当局の認識はほぼ一致していると言ってもいいんじゃないかと感じているわけであります。

本来行政はですねそのようにやはり共通認識を構築してですね、事業を進めていく必要があるね。名古屋城の天守閣整備事業のようなですね、大規模なプロジェクトにおいてはさらに細部にわたって認識をやはり一致させていく必要があると思いますので、事業の正常化に向けてですね、環境が整ってきているというふうに感じているわけであります。

広沢市長と当局の考え方の一致が高くなっているとこのような現状においてはですね、当局の認識として本事業を進めていくにあたり、障害者団体などとも対話が円滑に進むと感じているのかどうかについて確認をしたいと思います。お答えいただきたいと思います。

天守整備担当課長：失礼いたします。本事業におきまして文化庁の基準の復元として規模構造等に高い蓋然性を確保することとしておりますが、公募で選定した昇降設備や障害者のみならず、多くの方に天守を観覧していただくために必要なものであると認識しておりますので、引き続き可能な限り上層階を目指して、技術的な検討を進め木造天守の高い蓋然性を確保し、バリアフリーの両立を目指して取り組みたいと考えております。

市長を始めとして所管副市長、当局が共通認識を確保した上で、個々の思いや考えて行動せず、様々な機会を捉え、議論を尽くし、市内部の認識を一致させた上で事業を推進することが必要と考えておるところでございます。

お尋ねいただいた障害者団体との円滑な対話につきましては相手もある話でございますので、慎重に発言したいと思いますが、少なくとも当局としては市長をリーダーとして、事業を円滑に進めていく環境が整っていると感じているところでございます。

木下優（公明・中川区）：最後ですけども今後はですね、本当にこの事業が円滑に進んでいくかですね質問に対してはですね、相手がある話ということでありました。

当局としては本当に事業が円滑に進めていく環境が整ってきているという答弁が今ありましたが、市内部の認識を一致させて事業をすすめていくことはもう極めて重要であり、天守閣整備事業を進めていくにあたってはですね、特に留意しをして進めていただきたいと思います。以上であります。

みつなか美由紀（共産・緑区）：総括の中で一番まとめのところですね第4章の原因の整理とまとめというところでですね。

資料でいくと21ページになりますけども、イの全事業全体に影響を与えたものというところで、スケジュールを優先した事業の進め方であったことから、竣工時期を度々変更するなど混乱をきたすとともに調査検討が不足することとなったということが挙げられており、また職員の苦悩と葛藤というところでは、前市長の意向、職員による苦悩葛藤が見受けられたというふうにあります。そのことに対してですね、次のページのまとめでは、適切な対応ができていれば防げたものであったと捉えているということですね。

市内部の調整不足や史跡整備の経験不足ということが挙げられておりますけれども、裏を返せば市内部でしっかりと調整や史跡整備の経験が十分にあれば、前市長のとにかく早く木造化という強い意向のもとでも、その意向を跳ね返して、適切なスケジュール感を見直すことができたということをお考えですか。

天守閣整備担当課長：失礼いたします。我々の総括の中で3章の中でいろんな事象をですね、六つの事象を分析させていただいて、それぞれの原因を追及させていただきました。今回4章の中、その整理をさせていただいて、の二つの区分で整理させていただいております。

一つは事業の進め方に直接関わるもの、二つ目は事業全体に影響を与えたものということになり先ほど委員がおっしゃったの言われたスケジュールとですね苦悩と葛藤というのが、事業全体に影響を与えたものとさせていただいてましてそれ以外の原因の部分ですね。市内部の調整不足、人権感覚の希薄、史跡整備の経験不足、情報提供不足、これが事業の進め方に直接関わるものというところで整理させていただいております。

先ほどの質問ですね、過去における仮定の話でございましたので容易にお答えできることはちょっと差し控えたいなと思っておるところでございますが、我々が史跡整備の経験を

積みですね、その経験を内部的継承して、さらに市内部の調整を密にしてやっていくことで適切な対応をしていけば、スケジュールの優先とかですね、苦悩と葛藤って防げたんじゃないかと捉えているところでございます。以上です。

みつなか美由紀（共産・緑区）：前市長の強い意向がやっぱりスケジュール優先という強引なやり方になったという一番の原因ではないかというふうに思うんですけれどもその辺はいかがですか。

天守閣整備担当課長：失礼いたします。

前市長の強い意向があったってのはもう間違いない事実だと思っています。

ただ我々もですね、当局といたしましても、積み上げてスケジュールを設定して取り組まさせていただいているところでございましたので、全てが市長のせいだったというふうには位置づけてないところでございます。

みつなか美由紀（共産・緑区）：しかし全体としてもうスケジュール優先だったというところが至るところで、反省として挙げられてきているんですけれども、そのスケジュールありきとずっと進めてられてきた中での市民討論会もその一つだというふうに考えております。この市民討論会で、差別発言を制止できなかったというところもこの総括の中には人権問題への意識が希薄だったとかいうこともあり、それも当然そうだと思うんですけれども、このスケジュール優先だということも大きな原因になっているのではないかと考えますけれども、いかがですか。

整備担当課長：失礼いたします。先ほどにもちょっと答弁させていただきましたが、令和4年末にですね、整備基本計画をまとめ、令和5年には文化庁にですね、整備基本計画を出していくってというような大きな流れの中で市民討論会が行われたというのは認識しているところでございます。ただですね、我々としてはしっかりですね、その部分計画立ててやってきたつもりでございましたので、全てが全てスケジュール優先だったというふうなところではないと考えております。

みつなか美由紀（共産・緑区）：この市民討論会ですね6月3日に行われました5日にはバリアフリー有識者会議、そして10人名古屋城あと、全体整備検討会議で15日に委員会と、それを経て22日には整備基本計画を文化庁に提出したいという、そういう非常にタイトな予定だったということがわかります。

ここに間に合わせるためには、やっぱり3日の市民討論会ですね波風立てずに平穏無事に終わらせないという強い思いがあったのではないかというふうに考えます。そういう中で前市長の強い意向もあって、指示書も出され、そして全員切腹だとかまで言われて、職員も振り回されて大変だったと私は思いますけれども、そういう中でスケジュール優先にならざるを得なかったということも根本的なところにあると思います。

もう一つの観点からお聞きしたいと思いますが、原因の整理のアのところですね事業の進め方、直接関わるもの、4点掲載させていただいておりますけれども、その中の情報提供不足というところですね、わかりやすい情報提供についてはかける点があったということが内容反省として挙げられています。

情報提供をしっかりと行っていくというのは当然必要だと思いますけれども、それ以上にやはり市民の声を聞くと、市民の民意を踏まえるということが欠けていたということがここにはまだ出されていないわけですが、そのね原因としてしっかりと捉えないと総括も片手落ちになるのではないかと考えますけれども、その辺いかがでしょうか。

天守閣整備担当課長坂倉担当課長：失礼いたします。委員ご指摘の通りです情報提供不足ということで、原因の区分直接する事業の進め方に直接関わるものということで整理させていただいております。

事業の基礎情報としての大事な情報ですが、公式ウェブサイトにも相当の情報提供があるものも、わかりやすい情報提供については欠ける点があったと整理させていただいております。

今情報提供のことでおたずねいただきました。

市民の声をお聞きするにあたってはですね、様々な方法があると考えておりますので、市民説明会などで丁寧な形でご意見いただきながらですね、進めていきたいなと思っておりますのでございます。

みつなか美由紀（共産・緑区）：今後、市民の意見も丁寧にききながらということでありますが、5章の方では今後の事業の事業推進に向けてということでもね、情報市民等への丁寧かつ十分な情報提供に努め、わかりやすく伝えていくための情報発信の方法を検討し実施することで本事業に対する理解促進、機運が高められるように取り組むということがあります。

情報提供についてはしっかりと掲げていますけれども、市民の声を聞くというところでは、今後様々な方法でと言われましたけれども、具体的には何か考えをお持ちでしょうか。

整備担当課長：失礼いたします。

先ほど情報提供不足の、公式 Web Web サイトでの情報量は十分あるという話でしたが、量はありましたが、例えばわかりやすすくないというところがまず反省点であるかなと思っております。

そういうところを徐々にわかりやすくしていくというのがまず必要かなと。

また今途切れておりますけれども、市民説明会を再スタートし切れた後にはですね、しっかりとやっていってですね、しっかりと情報提供やっていきたいと思っておりますのでございます。よろしくお願いいたします。

みつなか美由紀（共産・緑区）：今も、情報の提供の仕方がわかりやすくなかったのでもわかりやすく、市民説明会の中でも情報提供していくということでなかなか市民の声をしっかりと受け止めていくということが聞かれなかったのが非常に残念だなというふうに思います。

これまでずっとスケジュール優先にしてきたことと同時にですね、そういう市民の声を真摯耳を傾けるということが欠けてきたのではないかというふうに思います。それが平成26年のネットアンケートや28年度に行った2万人アンケートにも表れていると思うんですね。

資料の方では第3章に戻りますけども、第三者この2万人アンケートをしたというところで、アンケート結果を竣工期限の設定に反映するのかの議論を内部で不足しておりというふうにありますね。

アンケートはやることは決めたけども、その結果をどう反映させるのかこれは議論不足だったという市民の声を真摯に受け止めようという姿勢に欠けているということの表れだと思います。その辺を反省としてはどう思われますか。

天守閣整備担当課：失礼いたします。2万人アンケートの当時の職員の認識というところ。ご質疑いただきました。平成28年ですね、5月に2万人アンケートを取ったというところでございます。

それを持ってですね、回答者のうち6割以上賛成を得たということで、事業が開始したというすごく重要なアンケートと位置づけております。

当時のですね、職員から聞き取ったことでかなり前の情報でございますので、どこまでかっていうところはありますけれども、やはりその先のアンケートをとった結果に対してのプラントがちょっと足りてなかったのかなというところは、反省しておるところでございます。以上です。

みつなか美由紀（共産・緑区）：このアンケートを行うにあたって、その結果をどう反映させるか議論不足のまま行ったということが問題だという指摘をさせていただきたいと思います。とりあえず2万人アンケートを行ったと。行った時点でもですね、そもそも、木造化の方が優位性があるといそういう情報の中で、市民の民意が正しく反映されていたのかというところには疑問が残ります。

実際のアンケートの文言を見てもですね、耐震化の方は、耐震改修した場合でもコンクリートがおおむね40年の寿命という結果が出ていると。木造化の方は木造復元という提案を募集し竹中工務店の優秀提案が選定されたということなんですね。

お金かけても40年しかもたない耐震化するのか、竹中が優秀な木造復元の提案をしていって竹中に決まったから、木造がいいのかと、そういう聞き方になっているのではないかと。

また長寿命化については検討さえしていない、情報も全くない。ネットアンケート以降は、再建するには木造しかないという認識があって、1年間こう言われ続けて来たことですね。

そういう様々な事情から見てですね、やはりこのアンケート正確性に欠けているのではないかと私は受け止めています。

市民の声を真摯に聞くという姿勢があるのならば今一度アンケート実施するべきだと思いますけれどもいかがでしょうか。

担当課長：失礼いたします。

本市といたしましては、平成27年度ですね技術提案交渉方式、平成28年5月のアンケートそれ以降の、29年5月ですね、竹中工務店との基本協定締結ということで進めさせていただいておりますが、本市としましてはですね、特別史跡名古屋城後の整備活用にとって適切かつ積極的な意味を持つ、持つかという観点で、耐震改修による現天守閣続と、木造復元と比較考慮した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから天守を木造復元するという方針にしております。

また、2万人アンケートにおいて回答者の6割以上の方に、木造復元に賛同いただけたことは、木造復元に対する市民の思いの表れであると受け止めておるところでございます。整備方針を見直すためにですね、改めてアンケートをとるといような予定はございませんのでご理解賜りたいでございます。

みつなか美由紀（共産・緑区）：市の方針としては木造化の方が、優位性があるだろうという認識はそれはそれでいいんですけども、市民に聞く場合にはやっぱりフラットにアンケートを取るべきだというふうに思いしかもこのアンケートを行ったのも9年も前のことですね、それから今日までの間に、石垣部会との見解の相違とかは大問題となった人権問題これは差別の象徴の城でいいのかということも言われましたけれども、そして今入れないままの再建の見通しが全くない現天守いつまでのまにしておくのかと延びれば延びるほど経費もかかっていくという様々な問題が出てきています。

9年前とは大きく違う情勢の中で今もう6割の市民が木造化を望んでいるといえるのかというところで、再度お聞きしますけれども、再度アンケートをする必要はないというお考えですか。

整備担当課長坂倉担当課長：失礼いたします。

事業の再開にあたってはですね、まず市民の皆様に対して総括の内容をお示しするとともに、今後の事業の進め方について丁寧に説明することが必要と考えております。

また情報提供不足であったということもありますので、今後はしっかり情報提供させていただきながら進めていきたいと思っているところでございます。ご質問のアンケートにつきましてはやはり6割以上の賛同いただけたということで天守閣事業を開始していると

いうところもありますので、改めて実施することは考えておりません。ご理解賜りたいと存じます。

みつなか美由紀（共産・緑区）：市民の声を聞くことが大事だと言いながら、今もやはり丁寧な情報提供していくというところに言及しているわけで、市民の意向を把握しようという姿勢にはなかなか感じられないというところがあります。この今の時点がですね今後の進め方というところに行きますけれども、事業の再スタートに行くまでの出発点だということだと思うんですね。この事業をこのまま進めていいのかというのが問われていると思います。

であるならば、市民説明会を開催し丁寧な説明をしていくということはもちろん必要なんですけども、今回のこの総括についてですね、市民の意見を聞いて、そして疑問があればそれにしっかり応える。

またこの総括について市民の中から異論が出たらそれについても再度議論をして、この総括自体をより深めていくということも必要だと思いますけれども、いかがでしょうか。

担当課長：失礼いたします。この総括を議会の皆様方にちょっとお認めいただいた後は可能な限り速やかにですね、総括の内容を市民の皆さんにお示ししたいと考えております。お示しする方法といたしましては公式ウェブサイトにおいてですね、公表することも考えておりますし、市民説明会等ですね、説明するっていうのも方法としてはあるのかなと思っております。

より今後よりですね、丁寧な形で説明を行っていきたいと思っておりますし意見をいただいて考えていききたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

みつなか美由紀（共産・緑区）：Web サイトでの公開というのが、丁寧なということになるのかというのは一つ疑問にあるところでもありますけれども、市民説明会で丁寧な説明だけでなく、やはり市民の方の意見を聞くと、市民の方の意見を聞くと、それをさらに取り入れていくということをしっかりと進めてやっていただきたいというふうに思う我が会派としては、この現天守を

戦後復興の象徴である現天守閣こそが歴史を後世に伝えるという点でも当時の人々の現天守に込められた思いを大切にするという点でも保存すべきであると考えてところです。

しかし実際にどうなっていくのかというのは、この先の進め方としてですね、スケジュールは考えずに、丁寧にしていくことを大事にする、認識するということが非常に強調されているところから言えば、アンケートの再度行うということや、当局が出したこの総括について、市民の皆さんから意見をしっかりともらうことというのも当然必要なことだと考えます。

これまでも述べてきましたけれども耐震化、木造化はどちらにするにせよ、原点に立ち返ってということを我が会派ずっと言ってきましたけれども、この原点っていうのが、大きく木造復元に舵が切られ、市民の中にも木造化一択だという認識になった2万人アンケー

ト前の段階だと思っておりますので、再検討するべきという考えを申し上げて以上で終わります。

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：先ほどみつなが委員の質問のご発言の中にいかなかなと思われる部分があったのではないかと思いますので、委員会記録を調査の上そのような部分がありましたら、委員長の方におきまして適宜の措置を取らせていただきますので、ご了承願います。他によろしいでしょうか。

金城ゆたか（陽向・瑞穂区）：私からも少し質問させていただきます。

差別問題があったときには私は当時委員長させていただいて、私の方から、当時の河村市長の方に検証総括が終わるまでは事業を進めないようにということで、経済指導委員会の総意として意見書を持っていきましてその後、市長に会うたび怒られてましたけど、当時減税でしたからそれはいいんですけど、あの差別の発言は非常に私も絶対許せんということがあったので、自分の意志を持ってそのようにさせていただきました。

非常に当時のことを考えると、なぜ名古屋市民の中から 5000 人の方を無作為に抽出していただけど、あれだけの賛成の方とまた障害者の方が、ああいう場にたまたま抽出されて参加されたんだろうとは思いますが、なんでああいう形だったんだろうって非常に私は未だに納得がいってないんですけど、これはもうしょうがないことなんで、これ以上言うことではないんですけど、質問としましてはやっぱり、なぜあの市民討論会が行う必要があったのかなと。さらに言うとなあいう形態の市民討論会が本当に必要だったのかなというのが未だに思うんですけど、それはいかがでしょうか。

天守閣整備担当課長：失礼いたします。先ほど来ちょっと議論の中で令和 5 年度に文化庁の方に整備基本計画を提出するスケジュールがあったというものでした。

整備基本計画の中に記載するバリアフリー方針を決定するにあたりですね、広く市民の皆様の意見を聴取したく、市民討論会という名称でございましたが、市民の意見を聴取するため開催をしたものでございます。ただ意見聴取が目的であったにも関わらず市民討論会という名称にしたこともあって、参加者の間で言い合う場面が生じました。

一部の参加者から他の参加者に対する差別発言がなされ人権問題に発展したというふうに認識しております。

行政が主催する会においてこのような事態になったことについては誠に申し訳なく、深く反省しているところでございます。

金城ゆたか（陽向・瑞穂区）：はい、ありがとうございます。そうするともう一つちょっと質問なんですけど確認なんですけど、討論会で言いますと、市民の討論会というと、市民と当局側の討論会ですよね。市民同士の討論会ではないと私は認識をしてるんですけど、その辺いかがですか。

整備担当課：当時の職員に聞きますとやはり名称は市民討論会という形でございましたけれども、市民同士が議論を戦わせるというような目的のものではなかったというふうに聞いております。

金城ゆたか（陽向・瑞穂区）：市民と名古屋市、当局の意見を交わせる場所だと私も思いますので、今後そういう討論会というような会合を開く話があるならば、その辺もやっぱり市民の皆さんに認識をしてもらう必要があるんじゃないかなとうふうに思います。二度と市民同士が討論しあってああいう発言がないように、今回の総括の中にも多分思われていると思いますけども、その辺もちょっと誤解がないようにしていただきたいなと思います。

さらにですねもう一点ちょっと最終報告において討論会の名称が不適切であったというのも一つあるんですけども、この中でやっぱり一番問題に出会ったなという認識は当局としてどういうことがありますか。

整備担当課：失礼いたします。何が問題、一番問題だったかというご質問でございました。

何が一番問題であったかというところは一概には申し上げにくいところでございますが、行政が事業を行う際に必要となる組織の内部でのですね共通認識を確保しつつどのような会にするのか、その会を開催するにはどのようなリスクがあるのか。

不測の事態が発生した際にどう対応するかなどの適切な準備やシミュレーションが不足していたというところです。

当日においても職員が適切な対応ができなかったそのような理由からですね適切な対応ができなかったものと認識しております。

最終報告では非常に多くの点で当局の問題点について指摘をいただいておりますので、これら全ての指摘を真摯に受け止め、今後に繋げる必要があると考えているところでございます。以上です。

金城ゆたか（陽向・瑞穂区）：ありがとうございます。今適切な準備やシミュレーション不足をしているというふうに言っていただきました。今回の場合ですね確か業者の方が主導して中心になってやっておられたというふうに思うんですけど、それは間違いなかったですね。

担当課長：失礼いたします。そうですね。委託業者に運営を一部お願いしてたところはあるかなと思っております。

金城ゆたか（陽向・瑞穂区）：はいですからこういう場合は先ほど言っていましたように、準備、シミュレーションそれがやっぱり業者の方が中心になってやってくれるということも考えられますのでそういうときもやっぱりしっかり市が一緒になってシミュレーションが

できるような形を準備不足にならないようにすることもやっぱり注意をしていただきたいなというふうに思います。最後に今回の全体的なものとしてですね、一番の問題だと思うのはどういうことでしょう。

なんだと思います。ちょっと言いにくいかもしれませんが。

整備担当課長：先ほどと同じですね。一概には言いにくいというところがございます。ちょっとなかなか私個人としてっていう形にお許しいただけるのであればですね、市内部の調整不足というところが非常にちょっとおおいかなというところを考えております。行政である以上はやはり大きな組織でございますので、その中でしっかり共通認識を持って進めていくってのがベースになると思っています。それができた上で前に進めていくというところができてなかったというところは非常に大きいかなと考えております。

金城ゆたか（陽向・瑞穂区）：言い難いところは、個人の意見ということでした。ありがとうございました。

確かに先ほどから出てます市内部の共通認識が不足してるっていうのが十分わかり前市長もやっぱり思いが強すぎて、本物の復元だっていうのは、それは非常にいいことだし重要なことだと思うんですけどもやっぱり現代においてはやっぱりバリアフリー、やっぱりそういう方々に対しての配慮というのは非常に重要なところもありますので、そういうところも含めた形のものを作り上げていくっていうのは重要だと思います。その上でやっぱり市内部が一つの方向を向いてやるというのは重要だと思います今回の河村ではない失礼しました。広沢市長は最上階までという形で答弁しましたのでやっと一つの一致したラインでいけるんじゃないかなと非常に安堵しているところですから、ぜひとも市内部一致させて、いい方向になるようにやっていただきたいと思います。以上です。

浅井正仁（自民・中川区）：すいません。私からも質問をいくつかさせていただきたいと思います。今回のこの名古屋城天守閣の木造復元事業ですけど、これを前に進めるためにまずどこで間違えたのか、何がいけなかったのかを過去の経緯を今回しっかりと検証していただいたのかなと思っています。だけど釈然としないところもちょっとありましてなんかすっきりしないところもあるんですよ僕の流れでは、その辺も踏まえてちょっと質問をさせていただくんですけど、まず添付資料の 80 ページか、本事業は市民、議会、文化庁、有識者など様々な関係者の十分な理解を得るとともに合意形成を図りながら丁寧に進めていく必要があると書いてあります。

まとめのところだねこれ、つまり市民への情報提供を不足していた。議会とも十分に向き合っていなかった。

文化庁とも十分な意思疎通ができていなかった。有識者とは十分な合意がないまま事業を進めた。

こうしたことを反省し今後は合意形成を図りながら丁寧に事業を進めていく。

こういう覚悟だと思うんですけど、そういうことでよろしいでしょうか。

渡辺所長：関係者との合意形成ということでお尋ねをいただきました。今回、過去の天守閣整備事業振り返りまして問題点とかを注視した際には、やはり今ご指摘いただいたように様々な方面との調整っていうところで、情報提供不足もそう餌を書くやり方があったというところで、どこかということではなく、全体的にやはり何か足りなかった部分があったのでということが、一つ課題として見えておりまして、私ども意思疎通と合意形成の重要性っていうのを改めて再認識をいたしまして、今、委員ご指摘いただいたような表現をさせていただいたところでございます。そこを丁寧に進めていくというのが私どもの基本的な考えです。

浅井正仁（自民・中川区）：もう一つ、ですね２段落目、木造天守の復元を進める上で、石垣の保存対策を含めた史跡の保護、現地天守閣の価値の評価、機運醸成に加えバリアフリーとの両立が欠くべからざる要素であると市長が答弁したとの記載があります。これは今後この四つの要素にしっかりと取り組むということによろしいですか。

渡辺所長：ただいま委員から引用いただきました２月定例会における市長の答弁でございます。これは市長の答弁ということにとどまらず、私ども行政としての基本的な考えでございます。木造復元を進める上での欠くべからざる要素といたしまして石垣の保存対策を含めた史跡の保護、現天守閣の価値の評価、機運醸成バリアフリーとの両立ということも重要だと思っております。今回新たにですねページで申し上げますと８３ページに、今後、木造復元天守事業を進めていくにあたって行政での市長副市長。当局における決め事といいますか、立ち返るときの方針というのがあるんですけども、その推進ポリシーの中でも、今委員ご指摘いただいた四つの要素についてはしっかり盛り込んでおりますので、先ほどお話をいただいたような様々な関係者との意思疎通、合意形成というものを進める際にはこの四つの要素の全体をしっかりと進めていけるように丁寧に進めてまいりたいと考えております。

浅井正仁（自民・中川区）：総括のこの資料に基づいて質問させていただきたい。
この総括で何がわかったのか、お答えください。

渡辺所長：この総括におきましては、まずはですね２年前の市民討論会そこでですね私ども差別事案を引き起こしてしまいました。昨年、最終報告で様々ご指摘をいただきました。

そこをご指摘いただいたことをしっかり局として受け止めてしっかり取り組んでいくということがまず第１なんですけども、市民討論会が一番大事まずもって大事で反省すべき点なんですけども、そこにとどまるのではなく事業全体を振り返って何が影響を与えたのかっていうことをしっかり分析して次に繋げるというプロセスが大事だと思っております。そうした結果といたしまして、事業の進め方に直接関わる課題でありましたし、事業全体

に影響をあたえたものということを我々なりに次に進むための問題点というのを分析できたと思っておりますので、これをどう本日も資料に掲げた再発防止、今後の進め方に生かしていけるのか、資料として取りまとめましたけども、どう実行できるのかっていうことを我々としてしっかりやっていくということが大事だと思っております。

浅井正仁（自民・中川区）：今までの一番の問題点は。

渡辺所長：今回の総括におきましては、先ほど来出ておりますけども、委員会資料においてはですね、21 ページに原因と書いておりますけども、過去 10 年天守閣 10 年を超える天守閣整備事業を振り返ったときの問題となった事柄であったと思いますし、市民討論会を起こしてしまった際の背景原因に繋がるようなということで、掲げたところでございます。

この六つ全てのことが重要だと思っております。

全てのことに再発防止しっかりやっていくということが大事それが基本的な考え方ではあるんですけども、一番のっていうことではないのかもしれないんですけども、様々な事象を振り返って点検を行った中で共通となった要素として、この 21 ページにも書いてある下段の方に書いてあります全体に影響を与えたものということでのスケジュール優先。別の言葉では竣工期限を優先したという言葉もございますけども、そういったところは複数の箇所に出てきておりまして、まさに文字通り事業全体に影響を与えたということで認識しております。

浅井正仁（自民・中川区）：スケジュール優先になったのは、ではなぜですか。

渡辺所長：スケジュール優先ってということはですね、そうですね元々この事業自体は前市長の強い思いに端を発しましてスタートしたと。そのときに木造復元ということと、そこに早期ということが続いていたかと思えます。

当時ですと 2020 年オリンピックまでにというような話もございました。一つはその要素が大きかったというのも事実であったと思っております。

ただそれだけではなくってですね、最初は市長の思いということだったんですけども、我々行政としても調査を重ねる中で、個人の思いから行政の方針に変わって、組織として職員も一生懸命取り組みながら前を進めてきたというようなところでございます。スケジュール優先っていうところにつきましては、市長の強い思いがあったということも事実なんですけども、行政としてもやっぱりスケジュールをしっかり目標と捉えて、そこを達成するために一生懸命ある意味最短距離を走ったというところで、結果として少し丁寧さを欠く、スケジュール優先と、後で振り返ると捉えられてもおかしくない状況であったと思っております。

浅井正仁（自民・中川区）：前市長の思いから組織になったんだけど、僕は指示書だと思うんだよね。

当時の局長さんこれ最後に河村市長ここに呼んだときにね、市長さんの河村市長さんも言ってたけど書けって言うもんで、書けって言われたで書いたそういう答弁をされたんだよ指示書。でもその指示書の中には、全責任は私が持つっていう文言があったから個人から組織に変わったかもしれない。だから僕は全てはこの指示書から始まっていると思うだよ、この指示書、

こんな指示書を名古屋市の歴史の中で今まで書いたことはあるのかないのか。

局長：おそらくここに出席するメンバー私が一番年長でございますので、僕の経験からいくとこの指示書以外にそういったものは見たことがございません。

浅井正仁（自民・中川区）：そうだよ。異例なんだよね。なぜこれ書いた、誰が書いた。経済市民経済局がかいたの、河村市長が書いたの。

所長：今回の総括にあたりまして、この指示書に関連するところということでは事象6つ掲げてる中の事象2のところが該当いたしまして、過去の経過を洗い出す中では過去の当時の担当職員にも聞き取りを行ったところでございます。今、委員ご指摘いただいた誰がってということではいきますと、いろんな議論があったやに聞いておりますが、最終的に市長から出されたということ、それが結論かと思っております。すいません。

浅井正仁（自民・中川区）：いろんな議論ってというのは何。

所長：具体的に申し上げますと指示書が出されたタイミングというのは技術提案交渉方式の公募、その予算出す出さないとかってというような議論があったときでございまして、その時に慎重な時期尚早じゃないかという考えと、竣工期限という目標に向かって速やかに動かしたい市長と当局における考えの違いがあるなかでかなり議論があったと聞いております。そうした中で最後市長の方針で前に進めるということででてきたものが指示書であったというように理解しております。

浅井正仁（自民・中川区）：行政にとってすごくおおきな話だよ。この指示書が出た時は局長はみえたんだよ。

局長：指示書の発出が平成27年8月24日になっておりますんで、市民経済局におりましたけどまだ別の仕事をしておりました。

浅井正仁（自民・中川区）：するとこの中で名古屋城に関係する人で、指示書の人見えるの、誰もいないの。いないんだ。

この指示書が出たら職員の方はなんて思った、何て言ってたの。もちろん聞いているよね。わかりますか。

所長：指示書自体は、先ほども言いましたけれども、市長の指示が明文化されたということと極めて異例な内容でございまして、今回聞き取りの中でいろんな議論を行う中で、すいません。

聞き取りを行う中でも、当局側から懸念を持っていることを前市長に説明する中で指示書が出され、前へ進んだということ

でもありますのでやはり重い、市長から出た指示文書で出たということになりますので重く受け止めて、その指示に従って動いていったということであると思います。

浅井正仁（自民・中川区）：重く受け止めたって職員一丸となって、市長のもと、頑張ろう、復元に向けてという意味。

局長：この指示書でございしますが、この本冊子の方の 133 ページについております。ここには四つの事項が入っておりましてその中でやっぱり一番大きいのが三つ目の事項であります 9 月定例会までに、法的技術的課題をクリアにして、技術提案交渉方式を進めるために必要な予算 9 月定例会にも補正予算を出すということの指示だと思います。これに向けて当時の職員は相当する無理をしながら、しかしこれ指示でございしますので実現に向けて頑張ったというふうに聞いているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：なんかよくわからんけど。じゃさあそういったものもこの総括に入れんといかんじゃのじゃないかなと思うんだけど、これがある意味起点でしょ。動き出した起点でしょ。

所長：委員ご指摘の通り、この指示書が出た後に技術提案交渉方式。指示書通りに補正予算が動き出してということでもございますので木造復元事業の中では今おっしゃられた起点、分岐点ということですかね、そういう位置づけにもなるのかなと思います。

この総括の中での位置づけって言うことで言いますとこの指示書だけを捉えてって言うことではないんですけども、この事象 2 ということで申し上げますと、ページで言うと本編の分厚い方の 18 ページですけども、経緯の中に最初に指示書がございしますので木造復元が動き出した起点という位置づけという認識は私ども持っていますので資料上もそう扱いながらそこに関する職員への聞き取りも行いながらまとめてきたところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：今回は強引さ、強引さ、それは市長も副市長もかな。の強引さスケジュールありき、これが一番の要因だったと思う。それでさ前市長の強引なやり方にどう思うのか、答えていただけないかなあ。

渡辺所長：すいません。前市長のやり方でございますけども、どう捉えるかは私ども事務方としてなかなか言いづらいところでもございます。市長が個人の強い思いを発揮されたというのも事実でございますし、当然、市長が言えば行政としても我々組織として動くという面がございますので、市長が引っ張ったということは紛れもないところなんですけども、私どもも市長も副市長も我々も同じ目標設定の中で仕事は進めたってということだと思っております。

浅井正仁（自民・中川区）：引っ張ってはくれたけど、間違ったところへ引っ張ってっちゃったってこと。

渡辺所長：様々この事業の過程では混乱を招いたこともございますし、途中でやはりこの事務方と市長の方針の違いということでの市民の皆様、議会の皆さまへのご迷惑をおかけしたということもございました。

ただ全てが間違った方向とか間違った方向へ行ったというものではなくてですね、やはりこの事業、様々特別史跡の中で行う特殊性もあり、最後に取りまとめ、原因、問題点ということで取りまとめましたように様々な要因が重なりまして、冒頭に委員がおっしゃったような多くの関係機関、本来は丁寧な合意形成に意志疎通が必要であったにもかかわらずなかなかそこが十分な対応ができていなかったということだと思っております。そこに関しては市長の大きな方針、思いもあれども、市長だけではなくて、我々行政としても、組織としても至らない点があったということでもあると思っております。

浅井正仁（自民・中川区）：一番最初スッキリしんというのは、例のサクラ問題。

あの時のメンバーで金城委員も一緒だったね。総務環境で減税の中川委員が突如、説明会においてサクラよんだ。それと一緒にやったのが田中特別秘書という話があった。中において、まだあれけりつついてないんだよね。けりがついたんかなあ。

局長：いわゆるサクラ問題ということが、問題があって令和6年度に入ってから5月と6月に確か2回所管事務調査お願いしたかと思う。その中で一定の説明をしてヒアリング結果を含めた増補版というのを出してですねご批判を浴びながらも、一定の説明してきたつもりではおりますので、我々としては一旦あの件については収束したのかなというそういう認識でございました。

浅井正仁（自民・中川区）：本当に収束したのかなあ金城委員。結局やったという人が出てきたのにも関わらず、サクラを入れたっていう人が出たにもかかわらず、結局うやむやになっちゃっただけの話、だからすっきりしないんだよね。これ総括をやるならば全部綺麗にした方が僕はいいと思う。あとは考えていただければいいけど、でもこれ事案があってから2年も経つんだよね。謝罪することもできん状況。この総括を出されたこの総括を

見ると反省という言葉はある、でも謝罪って言葉はないんだよね。その意味は何かあるのかしれないんだけど。それで、局長、これ僕は人としてまずその場に見えた当事者の方に、謝罪をするべきだと思うね、当事者だけじゃなくて障害者関係者の皆さん今後それを進めていかなきゃいけないと思う。

それが今回のこの総括の良い機会だと思う。市長のパワハラを待ったっていいかわかんない。

ひょっとしたらあと1年かかるかもしれない、2年かかるかもしれない。そんなに謝罪するのに時間を費やすもどうかと思う。

僕調べたらパワハラ認定これ、他都市の事例でいくと東郷町ね4ヶ月で結果出てるんですよ。

池田町長が7ヶ月、岐南町長7ヶ月。兵庫県の知事は6ヶ月。これで認定出てるんですよ。名古屋はまだ、なんでか知らんけども何が原因かわかんないけど目処が立ってないってことは、目処が立ってないんだ。

だから局長これを機会に謝罪も含めて行かれたらどうですか。どういう考えなのか教えてくださいたいと思います。

局長：浅井委員のご質問、当事者に謝罪という趣旨のお話ではないかと思っています。

本日のこの委員会に先立ちまして、差別発言を受けられた方に私は直接お会いをして参りました。で、この局の総括がまとまったものですからその内容の説明という形でお時間をいただいたところでございます。本当にご本人ととりましてはあの2年前の出来事というのは思い出したくないような記憶だというのはそういうことは承知しておりますけど、その中でお時間をいただいていたことにつきまして私は大変感謝しているところでございます。

説明をしたときにですね、ご本人はこの感想的なお話でございますけど、人権の問題に關しましては、あのスポーツ市民局が行いましたその第三者委員会による検証結果のこの間、最終報告の内容を自分としては了解したというそういったお話をいただいたところでございます。

名古屋城の木造復元事業につきましては、それとは切り離して考えているとそういったお話をいただいたところでございます。一方で障害がある方でございますので、そういった立場として障害者の1人でも多くの方がより上層階に上がれるような、そういったことをする自分としては願っているという話がありまして、障害者当事者との建設的な対話は今回の総括でも中心的な部分だと思いますけど、そういったことを行うことによりまして、そのバリアフリーの実現は強く望んでいると、そういったお話をいただきましたので、私はそのことを大変重く大切に受け止めたいと思っておりますので、そういったお話がございました。本日はこの委員会でも様々な意見を頂戴しております。今後につきましては、しっかりその障害者団体であるとか市民にこの総括の内容資料をしっかり説明するとそういったステップに進んでいけばいいなというふうに考えております。

そんなことでございますので今後そのご本人の謝罪だけでなくですね、今後行っていきます障害者団体等への説明の中も踏まえまして、総合的に踏まえた形であの事業の見極めをしていきたいというふうに考えているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：この総括が資料ができて、局長早速、説明謝罪いう対応していただいた。だけどそれで OK とはいえないと僕は思います。これから本当にこの資料にある通りのやり方で進めて理解を得て、木造復元に走っていくというところで行きたいんだけど、この総括ちょっと一番よく出て見えとる松雄副市長にもお話を聞きたいと思いますので、松雄副市長にこの場、委員会の出席して、この総括の資料の中でお話を聞きたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

委員長：ただいまですね浅井委員の方から、松雄副市長に対する出席のご要求がありましたが、本件につきましてはその取り扱いを正副委員長にご一任をいただきたいというふうに思いますけれども、よろしくお願いをいたしたいと思います。その他何かご質疑はありますか、よろしいですか。浅井委員続けますか。いいですか。では他にはよろしいですね。

それではですね、今その件につきまして正副委員長の協議をさしていただきたいというふうに思いますので、暫時休憩をいたしたいと思いますので、よろしくお願いをお願いいたします。

それでは休憩いたします